



赤ちゃん・ちびっこ通信

Vol. 11 (2015年3月発行)

日頃は「赤ちゃん研究員」にご登録、ご協力をいただき、まことにありがとうございます。お忙しい中、調査室までお越しくくださった保護者の皆さま、ご自宅での調査にご協力いただいた皆さま、まことにありがとうございました。今回は残念ながら予定があわなかった方、また調査の対象年齢の都合で残念ながら調査をお願いできなかった方には、たいへん申し訳ありませんでした。「赤ちゃん研究員」の皆さまのお力添えで、12年目となる九州大学「赤ちゃん・ちびっこ研究員」には、**3月現在で671名の方々（ご卒業された方も加えるとこれまで1542名の方）**にご登録・ご協力を頂いています。

調査を通して得た発見や貴重な情報を、学会で発表したり、論文や文章にまとめたりして、時間はかかりますが「きちんと」お伝えすることをスタッフ一同心がけております。また、その発見や知識が、赤ちゃん・お子さん、保護者の方にご協力いただいたことによって成り立っていることを忘れずに、日々の調査・研究にあたりたいと考えています。

今年度は、下記にご紹介するような調査を行ってまいりました。中には、現在論文として投稿中の研究もあります。これから新しい調査をたくさん予定しております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

今年度ご協力いただいた&現在進行中の調査をご紹介します

昨年度と今年度ご協力いただいた調査は、「2014年度国際赤ちゃん学会」（ドイツ・ベルリン 2014年7月）、「日本人間行動進化学会第7回大会」（神戸大学 2014年11月）等の学会・研究会で順次発表させていただきました。

赤ちゃん研究

喜び・怒り・悲しみに関する赤ちゃんの表情模倣

担当者：前山航暉 丸田弥音 対象：9～18ヶ月児

人が笑っている顔を見たら、ついこちらも笑った顔をしてしまう。このことは、人の感情を自分の中で再現し、人の気持ちを理解しようとする仕組みのため起こっていると考えられています。これまでの研究で、赤ちゃんも人の笑った顔や怒った顔を見ると、その表情を模倣する(まねる)ことが分かっています。そこで、笑った顔、怒った顔に加え、日常よく目にすると思われる悲しい顔を含んだ、これら3つの表情で赤ちゃんが模倣を行うかどうかを調査しました。

ちびっこ研究

幼児における人物の関係性に応じた意図の内容の推論の発達

担当者：宇土裕亮 対象：4～5歳児

私たちはコミュニケーションをする際、相手がどんな意図で行動をしたのかを推測するために、その相手の言葉や表情、話の流れなど、様々な情報を材料に推測します。その中でも私が注目したのは、人物の関係性（仲良しかどうか）という情報です。同じ行動であっても、二人の関係性が違えば、その行動の意図の受け取り方は変わってくるでしょう。そこで、人と人との関係性を相手の気持ちを考えるための情報として扱うことが、どのように発達していくかについて、去年行った調査を発展させ、より詳細なお話をお子さんに見てもらい、お話についてクイズに答えてもらいました。

子どもは「ダジャレ」が好きなのか？

担当者：浦田恭子 対象：4～6歳児

大人はダジャレが好きですが、子どもはダジャレが好きなのでしょうか。この調査では、子どもさんに、ダジャレ（例「クレヨンをくれよん」）を話す子どもと、意味はほぼ同じですがダジャレではない言葉（例「クレヨンをちょうだい」）を話す子どもが出てくる映像を見た後に、どちらが好きかを選んでもらいました。

幼児における関係性に応じた意図推論の発達

担当者：岸本励季 対象：4～5歳児

私たち大人は、他者に親切を行っている人に対して、良い印象を抱きます。しかし、同じ親切な行為でも、誰かから見られていることを知っている場面で行われた場合よりも、誰かから見られていることを知らない場面で行われた場合により良い印象を受けます。それでは、幼児は「行為者が見られていることを知っているか否か」を考慮に入れて、親切な行為を評価するのでしょうか。今回の調査では、「見られている時にだけ親切を行うぬいぐるみ」と、「見られていない（見られていると知らない）時にだけ親切を行うぬいぐるみ」が登場する劇をお子様に見ていただき、どちらのぬいぐるみを好きになるか調査を行いました。

登場のタイミングとモノの名前の判断に関する調査

「さまざまなタイミングでモノの名前が示されたとき、どちらの名前だと判断するのか」

担当者：秋吉由佳 対象：4～5歳児および成人

日常生活において、モノの名前はさまざまなタイミングで発せられます。例えば「クマさんだよ」と言ってぬいぐるみを渡されるという、モノと名前が同時に存在するようなこともあります。さっき通り過ぎていった車について、「車が通ったね」と話しかけられる場面のように、その場に存在しないモノについての名前を聞くこともあります。そのような、モノと名前がさまざまなタイミングで存在し、ときに動く状況で、モノと名前との間にある関係をどのように見出し、学んでいるのでしょうか。今回は、知らないモノと知らない名前が様々なタイミングで出てくる映像を見てもらい、アイトラッカーという、画面のどこを見ているのかを計測する装置（Tobii TX300）を用いて調査しました。



研究室からのお知らせ

- 私どもの研究室では現在、0～6歳頃までのお子さんと保護者の方に調査のご協力をいただいております。0～1歳のお子さんを「赤ちゃん研究員」、2歳～就学前までのお子さんを「ちびっこ研究員」としてご登録させていただいております。登録の切り替えは毎年4月に行っております。4月時点で2歳になられているお子さんにつきましては自動的に「ちびっこ研究員」へと登録を移行させていただいております。引き続きのご理解、ご協力をお願い申し上げます。
- お引越しなどで登録内容（電話番号・住所など）に変更が生じた場合は、ご連絡いただければ幸いです。また、遠方へのお引越し等で登録の解除を希望される場合は、その旨をご一報いただければ大変ありがたいです。こちらで変更の手続きをさせていただきます。
- 4月に小学校へ進学される皆さま、ご入学おめでとうございます。「赤ちゃん・ちびっこ研究員」の登録は就学年齢で終了とさせていただきます。長らくのご協力、まことにありがとうございました。

連絡先

九州大学 人間環境学研究院・教育学部 発達心理学講座

橋彌 和秀（はしや かずひで）：准教授

〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1（教育心理棟3階307号室）

TEL & FAX: (092) 642-3143 E-mail: babykyushu@yahoo.co.jp

Web : <http://www.hes.kyushu-u.ac.jp/devpsy1/is/index2.html>

九州大学 赤ちゃん研究員

